

成果の説明書

(氏名) 森 祐司	(学部) 経済学部 経済学科
<p>1 重要事項</p> <p>【研究】</p> <p>① 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 「地域銀行のコーポレートガバナンス ～持続可能なビジネスモデルの検証～」において、その第1のテーマである「地域銀行のCSR活動、ESG地域金融」の研究に取り組んだ。まずは、銀行のCSR、ESG要因に関する先行研究を渉猟し、日本の地域銀行のCSR要因の評価データを収集しデータベースを蓄積した。さらに、CSR動機に着目し、計量分析を行った。この研究結果を日本金融学会西日本部会で「地域銀行のCSR活動」として単独発表を行った。また同研究では、共同研究者とデータ共有を行ったり、意見交換を行ったりなど、研究主担当者として議論をリードしていった。</p> <p>② 同研究では、直近の地域銀行のガバナンスの状況を把握し、その後の計量分析に生かすために地域銀行のガバナンス報告書データをもとに現状分析を行っていた。その成果を『九州経済学会年報』から「地域銀行の内部ガバナンスの現状ーコーポレートガバナンス報告書からの分析ー」として論文を発表した(2022年12月)</p> <p>③ 共同研究者と参画する基盤研究(C)「地域金融機関のビジネスモデルに関する地域共生から見た検証」での研究では、地域金融機関でのリテール金融サービスを考えるために、わが国の家計のリスク資産への投資動向について、日本証券業協会から提供されたアンケート調査データに基づいて分析した。結果は地方銀行協会その他で発表し、2022年6月同協会の『金融構造研究』(44)16-29(2022年6月)で「わが国家計のリスク資産投資ー居住地域別特性からみた分析ー」として論文発表をした。</p> <p>④ 同じく、この共同研究で金融機関のユーザーへのアンケート調査データから、地域銀行の顧客満足度への要因分析を行った。同分析結果を「地域銀行のリテール金融顧客の満足度」として、日本金融学会関西部会(2022年9月24日)で研究発表を行った。</p> <p>【教育】</p> <p>① 2022年度から本校に着任し、コロナ禍の影響はあるものの、講義科目および演習講義を教室での対面形式で行うことになった。</p> <p>② 基礎演習におけるゼミ活動の一環として、東京証券取引所社主催「株式学習ゲーム」というシミュレーションゲームを採用し、ゼミ活動のグループワークで取り組んだ。基礎演習であるため、株式投資を通じて、株式会社や企業金融、財務分析にまずは触れて、基礎を理解させることを目的とした。各学生は関心を持って取り組み、非常に多くの学びと気づきを得たように見受けられる。</p> <p>③ 同基礎演習では、長野県立大学グローバルマネジメント学部の永田ゼミとインターゼミを高崎経済大学で開催した。2年生なので他大学の学生とゼミで交流するのは初めてであり、他大学の学生から多くの刺激を受け、今後の学習活動への励みになったと評価している。</p>	
<p>2 その他の事項</p> <p>① 学内：高崎経済大学教養委員(2022年4月～23年3月)</p> <p>② 学外：(公財)群馬県観光物産国際協会 資金運用委員会 委員(22年10月～)</p>	

3 次年度以降の計画・抱負

研究面では科研費研究 2 つに参画しているため、うまく調整しながら取り組む必要がある。①「ガバナンス」研究の方では、取締役の属性、社長（頭取）交代、政策保有株式などのガバナンス要因についての分析に着手し、今年度中に何らかの報告をできるように鋭意取り組んでいきたい。もう一方は研究協力者で、昨年度までの研究と内容的に継続しているので、さらに深化すべく努めていきたい。

教育面では、専門演習が始まるなど、学生との対話を増やししながら、分析能力の向上やプレゼンテーション技術を高められるように指導していきたい。ゼミ運営では会社訪問などの学外活動のほか、研究発表大会への参加なども推奨していきたい。インターゼミも秋学期には予定したい。